

■ 全体講評

今回の模擬試験では、午後Ⅰ、午後Ⅱ試験を通して問題の選択忘れが3件という少ない状況でした。過去には7%ほどの解答用紙において、問題の選択忘れがあった時期もありました。この状況から、本年度は試験に慣れている高いレベルの受験者多いことを示していると考えます。

一方、論述式試験では論文の体裁が整っている解答が多いという点を挙げるすることができます。

以上を踏まえると、今回の本試験もレベルの高い試験になることが予想できます。これから説明する解答作成のノウハウを確認して得点力をアップし、より確実に合格していきましょう。

■ 記述式試験

記述式試験において60点を突破するために留意すべき点を、記述式問題別に挙げておきます。具体的には、各問題の講評を参照してください。

問1 基幹システムにおける災害対策

(1) 問題文中のキーワードを、正確に使用して解答を作成する

(2) 問題文中にある漢字を誤字で書かない

問2 Webによる販売システムの再構築

(1) 過去問題をしっかりと学習して得点力をアップしておく

(2) ユーザ要求を踏まえて解答を作成する。

問3 費用配賦システムの改善について

(1) 解答は問題文の記述に倣って書く

(2) 解答は問題文にあるキーワードを使って書く

問4 自動販売機の開発

(1) 問題文にあるキーワードを正確に引用して解答を書く

(2) 設問文の条件を、全て正確に満たすように解答を作成する

更に、記述式問題を解く上での留意点を、次に挙げておきます。

(1) 難易度の低い設問を確実に得点する

難易度の高い設問を解けることも重要ですが、難易度の低い設問を確実に得点して、得点を積み重ねることが合格には不可欠です。したがって、時間が余ったら、既に解けていると思った解答も、全ての解答条件を満たしているか、確認するようにしましょう。

(2) 記述式問題では実質ページ数に留意する

問題の量で問題を選択する場合、ページ数や設問数だ

けで、問題を選択するのではなく、表などに小さい字で書かれていないかもチェックしましょう。

■ 論述式試験講評

論述式問題では、基本的な部分ができている、あるいは、論文としての体裁が整っていない解答がありました。次の点に留意してください。

(1) 質問事項の解答漏れをなくす

解答用紙の先頭にある質問も採点対象です。論述後に書こうと思っている人に、記入漏れが多いようです。遅くとも論文設計が終わったら、解答を書くようにするとよいでしょう。

本試験開始前に見ても問題がないことを確認した上で、解答用紙を開いて質問事項を確認しておくといよいでしょう。そのとき、設問イや設問ウの論述開始箇所も確認しておきましょう。

(2) 計画やシステムの名称は例に倣って書く

質問事項において、最初に問うている30字が計画やシステムの名称になっていないものが多いです。例を基に自分でチェックしましょう。計画やシステムの名称を例に倣って修飾すること、例と同じ語尾になること、も大切です。本番の試験でも、質問事項は採点対象なので、漏れなく解答するようにしましょう。

(3) 論文は1枚ずつ書く

書いた文字が重なり合った状態で、その上から字を書くと、双方のページに字が写るので、論文は1枚ずつ書くといよいです。

(4) 事例の詳細を書く

一般論を書いているのは、合格は難しいです。「一般的には～」などと書かないようにしましょう。「～という～の特徴を踏まえて」など、論述の題材とした事例の特徴を踏まえて論旨展開をすることが重要です。

(a) 禁則処理をする

(b) 箇条書きで、節を書き始めない、書き終えない

(c) 「いただく」「お客様(固有名詞を除く)」などの丁寧語は使わない

(d) 「思う」は使わない

(e) 括弧は、「(以下、～という)」以外では使わない

(f) 問題にある漢字をひらがなや誤った字で書かない

(g) 略字を書かない

以上、細かいポイントですが、このような点に着目して採点されるケースもあると考えてください。

次に午後の記述式試験の詳細な講評を説明します。

<午後Ⅰ>

問 1 基幹システムにおける災害対策

【講評】

問題文中のキーワードを、正確に使用して解答を作成する。設問 3(2)の設問文では“使用する機能の名称を含めて”と明記されています。設問文の解答条件を満足しないと部分点はありませぬ。したがって、問題文にある機能の名称を正確に含める必要があります。「受注実績蓄積機能」という解答がありました。問題文から、受注実績蓄積機能は改修され「受注実績蓄積・抽出機能」となっていることが分かります。したがって、正確に、改修後の名称を使って解答を作成するようにしてください。

問題文中にある漢字を誤字で書かない。例えば、「実績」を「実積」と書かないようにしましょう。

〔設問 1〕

“システム間で連携している情報”である「受注実績情報」と「生産情報」を、“ビジネス拠点間で転送している情報”に加えて、“ビジネス拠点間で転送している情報”を「受注実績情報」、「生産情報」、「出荷指示書情報」としている解答は正解としました。

〔設問 2〕

(1)問題点：翌日の5時を超過する旨の解答についても、同様の趣旨として正解としています。解決策：「並行処理」が明記されていない解答は部分点としました。

(2)「日次処理前バックアップ処理」が明記されていない解答は部分点としました。

〔設問 3〕

(1)情報：「注文情報」のない解答は厳しいですが、不正解としました。「当日のオンライン開始から」という旨を含まない解答は部分点としました。

(2)「受注実績蓄積・抽出機能」のない解答は厳しいですが、不正解としました。売上分析システムに取り込む旨が明記していない解答は部分点としました。

(3)正答率の高い設問です。

【採点基準】

〔設問 1〕

解答例と同じ解答は各4点、その他は、基本的に0点。

〔設問 2〕

(1)問題点：解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し4点、その他は、基本的に0点。解決策：解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点、ただし、「並行処理」を含まない解答は部分点3点。その他は、基本的に0点。

(2)「日次処理前バックアップ処理」を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し8点、同様の趣旨の解答であっても、「日次処理前バック

アップ処理」がない解答は部分点4点。その他は、基本的に0点。

〔設問 3〕

(1)情報：「注文情報」を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し4点、「注文情報」を解答例に倣って適切に修飾していない解答は部分点2点。その他は、基本的に0点。作業：解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し4点、その他は、基本的に0点。

(2)「受注実績蓄積・抽出機能」を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し8点、ただし、「売上分析システムに取り込む」旨を明記していない解答は部分点4点。その他は基本的に0点。

(3)解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し8点、その他は、基本的に0点。

問 2 Web による販売システムの再構築

【講評】

過去問題をしっかり学習して得点力をアップしておくようにしておきましょう。設問 3(3)は、平成 24 年秋システムアーキテクト午後Ⅰ問 2 の設問 3(2)に類似した設問です。それにもかかわらず、正答率が低い設問でした。本試験の午後Ⅰ記述式試験の過去問題を解けることが、次回の試験の午後Ⅰ試験突破につながると考えます。

ユーザ要求を踏まえて解答を作成する。この問題では、問題文にある〔代理店の要望〕にある記述や、同じ〔代理店の要望〕にある図や表 1 にある記述が正解を導くための記述になっています。この問題では、これらに記述されているユーザ要求を踏まえて解答を作成すると、高得点できるようになっています。

〔設問 1〕

厳しいですが、図のセキュリティ規約を踏まえて作成した解答のみを正解としました。したがって、「代理店が独自に Web ページを作成できない」、「代理店によるシステムの運営・管理が難しい」旨の解答は不正解としました。

表 1 にある、電子メールの読み忘れを根拠にした解答が散見されました。厳しいですが、これらについても不正解としました。

〔設問 2〕

表 2 にある SaaS の形態である、「カスタマイズは比較的容易に行えるが」、「初期導入コストは安価に抑えることができる」という記述から導いた解答を正解としました。表 2 の直後の「代理店の要望を踏まえて」という記述から、厳しいですが、代理店の要望を踏まえた解答のみを正解としました。したがって、表 2 にある「B 社は、電子モールの運営状況が把握でき、一括管理が可能であ

る」という記述を踏まえた解答は不正解としました。

〔設問 3〕

(1) 表 1 の“要望”にある「注文情報は自動的に伝わるようにしてほしい」という記述を根拠に、「自動的に」を必須としました。

(2) 表 1 の“制約”に書かれている電子メールの読み忘れの可能性を根拠に導いた解答については、正解としました。なお、「顧客に電子メールを自動的に発信するため」という解答については、厳しいですが、部分点としました。

(3) 督促メールの送信などの解答が散見されました。しかし、表 2 の“要望”にある「優遇策を考えてほしい」という記述を根拠に「優遇策」を必須としました。

【採点基準】

〔設問 1〕

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 6 点、その他は、基本的に 0 点。

〔設問 2〕

厳しいですが、片方の解答には「初期コスト」、残りの片方の解答には「カスタマイズ」を必須としました。解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 6 点、その他は、基本的に 0 点。

〔設問 3〕

(1) 厳しいですが、「自動的に」を必須として、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点、その他は、基本的に 0 点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 6 点、部分点は 3 点、その他は、基本的に 0 点。

(3) 「優遇策」を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点、その他は、基本的に 0 点。

問 3 費用配賦システムの改善について

【講評】

解答は問題文の記述に倣って書くようにしましょう。具体的には、設問 1(1)において「広告宣伝費の実績を～」という解答がありました。表 1 の配賦方法の記述を確認すると、解答の書き始めは、費用発生区分と同じになっていることが分かります。したがって、空欄 a の書き始めは、費用発生区分が「全社」なので、「全社の実績を～」となります。

解答は問題文にあるキーワードを使って書くようにしましょう。具体的には、設問 3(1)の空欄 d において、「広告宣伝費」という解答がありました。空欄 d は問題文中の〔要望 1 への対応〕の中の記述です。直前の〔要望〕にある要望 1 を確認すると、「店舗広告宣伝費」というキーワードが使われていることが分かります。空欄 d には、このキーワードが当てはまります。

〔設問 1〕

(1) 正答率の高い設問です。厳しいですが、部分点なしとしました。

(2) 「店舗の不採算部門」の「店舗」が省略されている解答が散見されました。厳しいですが、部分点としました。

〔設問 2〕

正答率の高い設問です。

〔設問 3〕

(1) 正答率の高い設問です。

(2) 問題文の〔要望 1 への対応〕の(1)の最後の「空欄 g ファイルは実績の値となる」という記述は誤りであり、「空欄 b は実績の値となる」が正しい記述でした。お詫びして訂正させていただきます。

したがって、空欄 g については、解答例に加え、図 1 において、「ファイル」につながるファイル名である、かつ、「実績の値となる」という記述を踏まえて「実績」という言葉を含む、「売上実績」、「費用実績」についても正解とします。なお、空欄 g については、問題文に「配賦指示ファイルにおいて、費用分類には空欄 g」という記述があり、この記述を基に解答を導くと、解答例にある「店舗広告宣伝費」を導くことができます。

〔設問 4〕

設問に沿っていない「4名減少した」という解答は厳しいですが不正解としました。

〔設問 5〕

正答率が 5%ほどの設問でした。難易度の高いことは、事前に推測できました。

【採点基準】

〔設問 1〕

(1) 解答例と同じものに対し 5 点、その他は、基本的に 0 点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、ただし、「店舗の不採算部門」の「店舗」が省略されている解答は部分点 2 点、その他は、基本的に 0 点。

〔設問 2〕

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 3 点、その他は、基本的に 0 点。

〔設問 3〕

(1) 空欄 e 以外は、解答例と同じものに対し各 3 点、その他は、基本的に 0 点。空欄 e は、解答例と同様の趣旨が適切に表現されているものに対し 3 点、その他は、基本的に 0 点。

(2) 解答例と同じものに対し各 3 点、その他は、基本的に 0 点。ただし、空欄 g は、解答例に加え、「売上実績」、あるいは、「費用実績」が適切に指摘されているものに

対しても3点、その他は、基本的に0点。

〔設問4〕

解答例と同じものに対し3点、その他は、基本的に0点。

〔設問5〕

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点、その他は、基本的に0点。

問4 自動販売機の開発

【講評】

問題文にあるキーワードを正確に引用して解答を書くようにしましょう。具体的には、設問1(2)において「人感センサ」を「人センサ」としている解答がありました。厳しいですが不正解としました。

設問文の条件を、すべて正確に満たすように解答を作成するようにしましょう。設問2(1)では、「改修対象の機能名を含めて」と問われているにもかかわらず、機能名を含めていない解答がありました。厳しいですが、趣旨は合っていない不正解としました。

〔設問1〕

(1)「日の出時刻」、「日没時刻」のない解答は部分点としました。

(2)「人感センサ」という記述がない解答は厳しいですが、不正解としました。

〔設問2〕

(1)「設定機能」のない解答は、厳しいですが、不正解としました。

(2)「顔認識」のない解答は、厳しいですが、不正解としました。

(3)正答率の高い設問でした。

〔設問3〕

(1)正答率の高い設問でした。

(2)提携店優先紹介機能の前提条件である道案内機能に必要な情報という観点から解答を導くことが難しいようでした。ただし、もう一方の特売情報やお勧めメニュー情報に関する解答の正答率については、高いという状況です。

「販売店や飲食店の位置情報や開店・閉店情報」という旨の解答が散見されました。特売情報やお勧めメニュー情報に含まれていると判断し、厳しいですが、不正解としました。

【採点基準】

〔設問1〕

(1)解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し8点、ただし、「日の出時刻」、「日没時刻」のない解答は部分点4点、その他は、基本的に0点。

(2)「人感センサ」を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点、その他は、基本的に0点。

〔設問2〕

(1)「設定機能」を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し8点、その他は、基本的に0点。

(2)「顔認識」を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し8点、その他は、基本的に0点。

(3)解答例と同じものに対し4点、その他は、基本的に0点。

〔設問3〕

(1)解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点、その他は、基本的に0点。

(2)解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各4点、その他は、基本的に0点。

<合格に向けて>

みなさん、自分の改善すべき点を確認して、合格を決めましょう。次のような改善策があります。参考にしてください。

〔午前Ⅰ・Ⅱ 多肢選択式問題〕

学習方法基本は、過去問題を解き、解答解説を含めてしっかりと勉強することです。分からない点はテキスト学習でカバーするとよいでしょう。

素晴らしい論文を書いている受験者に、前回不合格になった原因を聞くと、午前Ⅱにおいて足切りになった方が多いことが分かります。午前免除の方も、午前Ⅱ対策については試験当日の朝から試験直前まで、継続するようにしましょう。

〔午後Ⅰ 記述式問題〕

過去問題の演習を中心に学習を行い、解答については、本試験と同様に鉛筆で書くようにしましょう。解答と正解例のギャップをチェックして、それらに違いが生じた原因を簡単に分析するとよいでしょう。

記述式問題では、設問の条件を全て満足する解答を作成することが重要です。解答欄に記入する前にもう一度解答条件をチェックしてみましょう。

〔午後Ⅱ 論述式問題〕

制限時間内に書くためには、問題文の趣旨に沿って事例の詳細を展開させるように書くことが重要です。ただし、問題の趣旨を、なぞるように書くことはやめましょう。しっかりと掘り下げて書くことが重要です。一般論を展開するのではなく、対象業務の特徴や、システムの特徴を踏まえて、論旨展開することが大切です。

以上を踏まえて、本試験当日までがんばり、合格を、より確実にしましょう。

以上